明日へ向かって



第3学年

学年だより 3月7日 第68号

準備~自らが「生きる力」をつけていくために~

みなさんは中学を卒業して、また一つの峠を越えるべく歩んでいくわけです。しかし今度は義務教育ではないので、自分がしっかりしなければ、保障となるものは何もないわけです。意識の改革、自分の力で生きていくための準備を、あと残されたわずかな期間に進めなければなりません。

さて、中学卒業後は多様な進路が待っています。必ず大学へ進学しなければならないということもない。就職を考えるならば、今度は「履歴書を書く」「就職を行う」という新たなことにチャレンジしなければならない。これらに対応し、自分の力で生き抜いていくための、土台になる部分はなにか。それが今回みなさんが行った進路への取り組みです。

今回の進路への取り組みを通じて、「なにも学ぶことがなかった」「成長することはなかった」としたら、その人は何のために高校へ行くのでしょう。次の三年間へ、良かったことは参考にして、良くなかったことは同じ過ちを繰り返さないよう、きっちりと振り返る必要があるのではないでしょう

か。春三月。今の自分自身がこの「進路を決める」ということについてやってきたこと、 考えたこと、また実際に取り組んでみてこうだった、こうすればさらによかったはずだ、 と、いろいろなことが思い起こされてこそ、 今回の進路への取り組みが意義あるものだ

高校生活は中学校以上に濃い

中学生だって学年が上がるたびにスタートダッシュが重要だったが、高校では中学以上! 4月から、どぉ~っと「これが高校生活だっ!!」と言わんばかりにいろいろなことが押し寄せる。 準備できる事はしっかりと準備すべしだ!!

ったといえるはずです。この一週間で、あなたの今回の取組を総括してみてはいかがですか?

生き方としての進路

いよいよ学年時間割突入。残り2週間の中学生活となりました。この先の、とりあえずの進路を決め、四月から進むべき道程の扉を開くための準備をする期間。まだ進路を決めあぐねている仲間も、必ず強い意思でその道を決めます。

この「四月から進むべき道程の扉を開く」ということを、真正面から受け止め考えてほしいと思います。学年だより第3号(進路学習スタート号)のこの一文、覚えていますか?

■高校へ行くことがゴールなのではない

令和5年3月1日、東京都立高校では第2学年・第3学年からの転入学・編入学募集を公開しました。これは通常の都立入試の裏に隠れていて、あまり目立った発表ではありませんが、全学科トータ

ルしてなんと5,575人もの補充人員の募集を発表しました。そのうちの2,470人は第2学年を対象としています。つまり、全日制の都立高校に進学した人がこれだけ辞めているということです。 単純に1クラス35人と見積もって、約70クラス。文京九中1校規模の学校の、なんと7.7校分の人を新年度に補充するのです。(中略)こうした事実からも分かるように、当の意味での「進路」とは、「どこの高校に入るか」ということだけではすまされない問題になっていることは事実です。(学年だより第3号より)

中退の理由は様々です。しかし、「学校生活・学業不適応」を理由に挙げる人も、「進路変更」を理由に挙げる人も、驚くほど人数が多いものです。しかも、進路変更を希望する人のかなりの割合が、 実際には進路を変更できずにどこにも通っていない事実があります。

その理由としては、「次の編入先に通うお金がない」「中退後、どうしたらよいかという情報が得られない」といったことが挙げられます。また就職希望のほとんどが非正規労働(パート・アルバイト)です。正規社員を希望しても中退者の雇用がないのです。

日本では、非正規労働は、正社員として働いたというキャリアにみなされません。最初の就労が非正規労働者であると、将来、正社員として就職を考えていく時、たいへん不利になってしまうという現状があります。非正規労働についてしまうと、生涯、賃金は上がらないし、社会保障もない。たいへん厳しいと言うことです。

これから高校でガンバロウ!って思っている時なのに、 今、そんなことを言わなくてもいいじゃない! なんでそんな水を差すようなこと言うの?





それは……

「まさか自分にそんなことが起こるとは考えもしない、 いや、これからという時にそんなこと考えたくもない!」 そう思っているからです。

これからの進路は、とても長い間続いていくのです。人生80年が24時間だったとしたら15歳のあなたは、まだ朝の4時半過ぎ……これから夜明けを迎える、前途洋洋たる時間にいるのです。この先、なにが起こるかわからない。それでも自分の力で生き抜いていくのです。

進路とは、自分の生きざまの延長線上にあるものです。「自分がやってきたこと」「自分がやってこなかったこと」これら全てが、最後の最後には進路を決めるのです。「中学卒業 → 高校進学」で進路が終わるわけではないので、「どうせ、おれの成績じゃ……高校はあきらめた」など、それで「人生」という自分の進路から逃げ出すわけにはいきません。

今、人生初の「進路を決定する」という大仕事に真正面から向き合い、「頑張ることができる自分」を手に入れることができたなら、たとえ高校進学の際には結果が出なかったとしても、人生という進路において必ず大成します。(学年だより第3号より)

知りたくない事実や、もしかして自分がその立場になる可能性が、まったくのゼロとは言えない好ましくない事実から単に目を背け、逃げ続けて、自分にとって気持のいい事だけを考え続けながら生きていくのと、目の前に確かにある具体的事実を知り、客観的な視点から将来起こりうるかもしれないマイナス要因とも真正面から向き合って、その上で起こすべき奇跡や好ましい未来を現実のものとすべく、明るくたくましく生きるのとでは、根本的に違うのです。

置かれた場所で咲きなさい

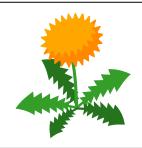
どうしてもその高校が合わないという場合も出てきましょう。とことん調べ、惚れ込んで合格した第一志望の高校ですら、生活してみなければ分からないこともあります。「こんなはずではなかった」と悩むこともあるでしょう。新たな進路を考える人も出てくるかもしれません。それを全面否定するつもりはありません。

でも、でも、そこをあえて言いたいのです。「**石にかじりついても三年間は頑張りなさい**」と。 そのためには、いろんな手段を知ることです。自分一人でなんとかしようと煮詰まらないように、 人に頼ることを知ることです。また、頼るべき人、頼ってもいい人を見極める力を身に付けることです。 それには、自分自身が「なにか新しいことをやってやろう」「こうやったらいいんじゃないか、 ああやったらいいんじゃないか」と常に能動的に動くことです。ようするにクリエイティブな気概を 持って生きることです。そうしていれば、一人では実現不可能なことというのが必ず出てきます。人と協力し合っている間に、「頼ってもいい人」を見極められるようになります。

ノートルダム清心女学園学園長の渡辺和子さんの著書には、このような言葉があります。

自分が自分らしく生き、その先の生き方を考えられること。 時間の使い方は、そのまま いのちの使い方なのです。 置かれた所で咲きなさい。

置かれた所こそが、今のあなたの居場所なのです。 「こんなはずじゃなかった」と思う時にも、 その状況の中で「咲く」努力をしてほしいのです。



大学や学部を選ぶ時、「大学卒業後に就きたい仕事のことを考えた」という人と、「目的はあまり考えずとりあえず大学に進学してみようと思った」という人では、実は後者のほうが内定者が多い。学ぶ時期に職業をピンポイントで限定しない方が就職内定率は高くなる。幅広い人間性、柔らかな思考、フレキシブルな気持ちを育てることが、これからの自分を豊かにしていくカギであろうと思うのです。あなたがたが中学校を卒業した後、「さあ、困ったぞ」というときに、なにか思い出してもらえて、役に立つこと、これを一つでも二つでも提供することが、我々3学年教員ができる「最後の授業」だと思うのです。厳しい現実も、困った時頼れる何かがきっとあることも、できるかぎり伝えたい。そうして、きっと、たくましく生き抜いていってください。

明日は最後の校外学習です

<持ち物>

水筒、生徒手帳、ティッシュ、ハンカチ、雨具、ビニール袋、時計・カメラは自己責任で可(携帯電話等は不可)班行動費(上限8,000円)※昼食代、小遣いを含める 交通費(必要な場合は事前に交通系ICカードにチャージしておく)

<時程>

8:40~ 9:00 駒込駅北口公園前 出発チェック

10:00 お台場到着

11:00~13:00 スマートフォンを用い、オンラインチェックを受ける

14:55 お台場 出発

15:40~16:00 駒込駅北口公園前 到着チェック

<服装>

私服(華美でないもの・防寒を考えた服装)、履きなれた靴



※画像はイメージです

今後の予定

11日(月)	生徒会朝会(部長)
	①②織田学園中野高等専修学校の先生方による特別出前授業
	③④転職経験のある方々による特別職業講話 ⑤⑥美術
12日(火)	①~④球技大会 ⑤⑥学活
13日(水)	①②卒業式練習 ③④卒業アルバム Webum 説明 ⑤学活
14日(木)	①②卒業式練習 ③④動画視聴 ⑤⑥宮古島からのオンライン特別授業
	タブレット回収 都立高等学校分割後期・二次募集合否発表
15日(金)	①学年集会 ②卒業式練習 ③④卒業式予行練習 ⑤3年生を送る会 ⑥カット